24　　百鬼夜行

文法　助動詞⑨　断定 なり・たり　伝聞推定 なり

　　読解　状態の理由をつかむ

新傾向　類似の物語から読み深める

ある修行者が、旅の途中、堂で一夜を明かすことになった。気味悪い場所だったので、を祈るを唱えていた。

夜中ばかりにやなりぬらんと思ふ程に、人々の声①あまたしてる音すなり。見れば、手ごとに火をともして、百人ばかりこの堂の内に来ひたり。近くて見れば、目一つ付きたりなどさまざまなり。人ⓐにもあらず、㋐あさましき者どもⓑなりけり。あるいはひⓒたり。頭もえもいはず恐ろしげⓓなる者どもなり。恐ろしと思へども、すべきやうもなくて居たれば、おのおのみな居ぬ。一人ぞまた所もなくて、②え居ずして、火をうち振りて、我をつらつらと見ていふやう、「我が居るべき座に、新しき不動尊こそ居ひたれ。今夜ばかりは外におはせ」とて、片手して我を引きさげて、堂の縁の下にゑつ。さる程に、「暁にⓔなりぬ」とて、この人々㋑ののしりて帰りぬ。

【原文】

夜中ばかりにやなりぬらんと思ふ程に、人々の声あまたして来る音すなり。見れば、手ごとに火をともして、百人ばかりこの堂の内に来集ひたり。近くて見れば、目一つ付きたりなどさまざまなり。人にもあらず、あさましき者どもなりけり。あるいは角生ひたり。頭もえもいはず恐ろしげなる者どもなり。恐ろしと思へども、すべきやうもなくて居たれば、おのおのみな居ぬ。一人ぞまた所もなくて、え居ずして、火をうち振りて、我をつらつらと見ていふやう、「我が居るべき座に、新しき不動尊こそ居給ひたれ。今夜ばかりは外におはせ」とて、片手して我を引きさげて、堂の縁の下に据ゑつ。さる程に、「暁になりぬ」とて、この人々ののしりて帰りぬ。

問一　次の「内容わしづかみ」の空欄に本文中の語句を書き入れよ。

修行者が堂の中で休んでいると［　　　　］ほどの［　　　］でもない者たちが来たが、その中の［　　　　］が、修行者を見て「新しい［　　　　　　］が自分の場所に座っている」と言い、修行者を［　　　　　　　　　　］に置き、明け方になるとみな、帰っていった。

問二　波線部㋐・㋑の意味を答えよ（終止形でよい）。〈3点×2〉

㋐〔　　　　　　　　　　〕

㋑〔　　　　　　　　　　〕

問三　二重線部ⓐ〜ⓔの文法的な説明として正しいものを選べ。同じ記号を何度用いてもよい。〈2点×5〉

ア　断定の助動詞　　　　イ　推定の助動詞

ウ　伝聞の助動詞　　　　エ　形容動詞の活用語尾

オ　ラ行四段活用動詞　　カ　存続（完了）の助動詞

ⓐ〔　　　〕　ⓑ〔　　　〕　ⓒ〔　　　〕　ⓓ〔　　　〕

ⓔ〔　　　〕

問四　［チェック問題］助動詞⑨　断定 なり・たり　伝聞推定 なり

(1)　 次の活用表を完成させよ。〈1点×3〉

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 断定  たり | | 断定  なり | | 伝聞・推定  なり |  |
|  |  |  |  |  | 未然形 |
|  |  |  |  |  | 連用形 |
|  |  |  |  |  | 終止形 |
|  |  |  |  |  | 連体形 |
|  |  |  |  |  | 已然形 |
|  |  |  |  |  | 命令形 |
|  | |  | |  | 接続 |

(2)　 次の傍線部の助動詞について、文法的説明を問三の選択肢から選べ。〈1点×4〉

1　上人の感涙いたづらになりにけり。（徒然草）

2　皆人は花の衣になりぬなり（古今集）

3　少しのことにも、はあらまほしきことなり。（徒然草）

4　外国人たりといへども、…（正法眼蔵随聞記）

1〔　　　〕　2〔　　　〕　3〔　　　〕　4〔　　　〕

問五　傍線部①を現代語訳せよ。〈5点〉

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問六　傍線部②とあるが、この時の「一人」は、なぜこのような状態になってしまったのか。三十字以内で答えよ。〈10点〉

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問七　本文の内容に合致するものを一つ選べ。〈6点〉

ア　夜明け方に修行者が堂で休んでいると、火をそれぞれ手に持った恐ろしい者たちが次々に現れて、修行者を襲おうとした。

イ　堂の中で修行者が寝ていた時、異形の者たちがやってきて見つかってしまったが、人間だとわかると逃がしてくれた。

ウ　修行者は不動尊を信仰していたために、異形の者に襲われた時、不動尊が異形の者を撃退してくれた。

エ　異形の者には、堂に宿泊していた修行者が不動尊に見えたらしく、その中の一人が堂の縁の下に修行者を移動させた。

〔　　　〕

問八　鬼に行き逢ったが事なきを得たというエピソードは『今昔物語集』にも見られる。本文と次の【資料】とを踏まえた生徒の会話のうち、最も適当なものを選べ。〈6点〉

【資料】　※一部原文のまま記してある。

　右大臣藤原の長男であるはある夜、人に会いにいく途中で鬼の集団に遭遇した。常行は柱のかげに隠れてやり過ごそうとしたが、人間の気配を感知した鬼たちはこれを捕まえようとした。しかし鬼たちは、何度も常行の方に近づいてきては途中で引き返していく。とうとう鬼たちは消えてしまい、難を逃れた常行は無我夢中で家に帰った。帰宅した常行から事の次第を聞いた乳母は次のように言った。

　「あさましかりけることかな。、おのれが兄弟のに言ひて、を書かしめて、御衣のに入れしが、かく貴かりけること。もし、しからざらましかば、いかならまし」

（注）　阿闍梨＝模範となるべき高徳の僧。

　　　　尊勝陀羅尼＝仏教で用いられる呪文。

ア　生徒Ａ―本文では鬼がたまたま修行者を取るに足らない不動尊と見なしたことで助かっているし、【資料】でも常行は偶然通りかかった阿闍梨に助けられている。二人とも本当に運が良かったね。

イ　生徒Ｂ―直接的には、鬼が見間違えるほど熱心に修行者が唱えていた不動明王を祈る呪文と、常行が身につけていた尊勝陀羅尼とが、それぞれの人物を救ったといえるのではないかな。

ウ　生徒Ａ―そうだね。だから、これらの話はいかに日頃の行いが大切であるかということを示しているね。修行者にしても常行にしても、己が常日頃から積んでいた徳によって生きのびたわけだから。

エ　生徒Ｂ―それにしても、【資料】の乳母はなぜ常行のことを「あさまし」だなんて言うのだろう。本文では鬼に対して使われている言葉なのに。常行が夜中に出歩くことをとがめているのかな。

〔　　　〕

【解答】

問一　百人／人／一人／不動尊／堂の縁の下

問二　㋐＝驚きあきれる　㋑＝大声で騒ぐ〈3点×2〉

問三　ⓐ＝ア　ⓑ＝ア　ⓒ＝カ　ⓓ＝エ　ⓔ＝オ〈2点×5〉

問四　(1)　〈1点×3〉

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 断定  たり | | 断定  なり | | 伝聞・推定  なり |  |
|  | たら |  | なら | 〇 | 未然形 |
| と | たり | に | なり | (なり) | 連用形 |
|  | たり |  | なり | なり | 終止形 |
|  | たる |  | なる | なる | 連体形 |
|  | たれ |  | なれ | なれ | 已然形 |
|  | たれ |  | なれ | 〇 | 命令形 |
| 体言 | | 体言・  連体形 | | 終止形  (ラ変型には連体形) | 接続 |

(2)　1＝オ　2＝ウ　3＝ア　4＝ア〈1点×4〉

問五　大勢で来る音がするようだ。〈5点〉

問六　自分が座るはずの場所に新しい不動尊が座っていたから。（26字）

〈10点〉

問七　エ〈6点〉

問八　イ〈6点〉

【現代語訳】

夜中あたりになっているだろうかと思う頃に、人々の声が大勢で来る音がするようだ。見ると、それぞれの手に火をともして、百人ほどがこの堂の中に来て集まった。近くで見ると、目が一つ付いているなどさまざまである。人でもなく、驚きあきれる者たちであることよ。ある者は角が生えている。頭もなんとも言えず恐ろしい感じの者たちである。恐ろしいと思うが、どうしようもなくて座っていると、それぞれみな座った。一人が（座るための）ほかの所もなくて、座ることができなくて、火を振って、私をじっと見て言うことには、「私が座るはずの席に、新しい不動尊がお座りになっている。今夜だけは外にいらっしゃってください」と言って、片手で私を引き下げて、堂の縁の下に置いた。そうするうちに、「明け方になった」と言って、この人々は大声で騒いで帰った。

【資料】現代語訳

　「驚きあきれたことだなあ。昨年、私の兄弟の阿闍梨に言って、尊勝陀羅尼を書かせて、お召し物のに入れたが、このようにありがたいことであるよ。もし、そうでなかったならば、どんなになっていたものだろうか」

【補充問題】

問１　「百人ばかり」（２行目）とあるが、該当しないものを一つ選べ。

ア　目が一つ付いている者。

イ　角が生えている者。

ウ　頭が何ともいえず恐ろしい者。

エ　不動尊の姿をしている者。

問２　「片手して我を引きさげて」（６〜７行目）とあるが、修行者は、なぜこのようにされたのか。最も適当なものを選べ。

ア　鬼には修行者が不動尊の像に見えたから。

イ　修行者が鬼よりもずっと小さくて軽かったから。

ウ　鬼が修行者を後で食べてしまおうと思ったから。

エ　鬼が不動尊は大事にすべきだと考えたから。

【補充問題解答】

問１　エ

問２　ア